
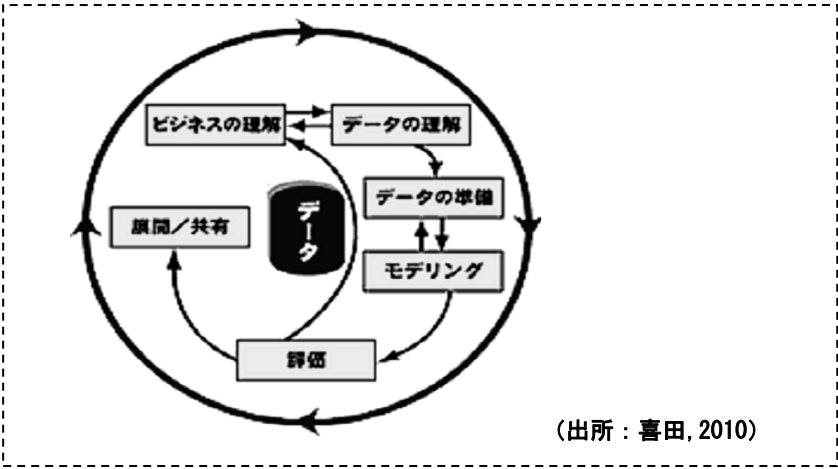


<p>経済・経営</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ ビジネス・経営におけるデータ活用・分析の現状と課題</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ データマイニング ■ テキストマイニング ■ 機械学習 ■ データマネジメント ■ ビジネスデータサイエンス 	<p>経営学やビジネスでのデータマイニング及びテキストマイニングの利用をアカデミック(方法論的)と実務的な面から研究を進めてきました。データマイニング及びテキストマイニングは、データサイエンスの中で重要な方法の一つです。そこから現在注目を集めている機械学習(AI)にもつながり、そのビジネスでの活用法を研究の中心としています。</p> <p>このような方法論的なデータマイニングとテキストマイニングから、ビジネス(実務界)での活用に注目し、企業内データ活用・分析の現状調査などを行い、日本ではあまり議論されておらず、データ活用の前提条件であるデータマネジメント(データの質の管理)やデータ活用及び管理に必要な人材の育成に注目した著作を上梓しています。</p>
	<p>そこで、うまくデータ活用を行うのには、図で上げているような台本(フレーム)が必要となります。これは、CRISP_DM(Cross-Industry Standard Process for Data Mining)と呼ばれます。名前からもわかるように、このモデルはさまざまな業種やビジネスにおいて使用することができる一般的なモデルとして考案されている。CRISP_DMには、データマイニングの主要な課題を扱う6つの段階があり、循環的、適応的な過程を構成している。これでは、企業内でのデータ活用においては、「ビジネスの理解」という課題発見の段階が一番重要であることも示唆されています。その段階では、僕の専門分野である「経営管理論」「経営組織論」、そしてもちろん「経営戦略論」の知識が必要となります。</p>
<p>喜田 昌樹 Masaki Kida</p>	<p>そして、この台本が、企業でのデータ活用の指針となり、自社のデータ活用の課題を発見するのに用いることができるのです。その上で、現在この台本と関係でデータサイエンスを整理し、ビジネスデータサイエンスという領域構築を考えております。</p>
<p>経済学部 教授</p>	
<p>【プロフィール】 専門分野 経営管理論、経営組織論 ビジネスデータサイエンス</p> <p>略歴 同志社大学 経済学部 大学、1989年、卒業、 神戸大学 経営学研究科 博士課程、1995年、単位取得 満期退学 博士(経営学)、経営学、神戸 大学、論文、2008年 大阪学院大学 企業情報学 部、教授、2008年10月～ 2014年03月 大阪学院大学 経営学部、教 授、2014年04月～2021年 03月 滋賀大学経済学部教授、2021 年4月より</p>	<div style="text-align: center;">  <p>(出所：喜田, 2010)</p> </div> <p>「主要な研究業績」 ビジネス・データサイエンス入門：データ分析業務の自動化とデータサイエンティストのリスキリング，白桃書房，2023 新テキストマイニング入門—経営研究での「非構造化データ」の扱い方，白桃書房，2018年 ビジネス・データマイニング入門[増補改訂版]，白桃書房，2019年 経営のためのデータマネジメント入門，中央経済社，2018年</p>
<p>【主な社会的活動】 組織学会 日本経営学会</p>	
<p>【社会貢献など】 日本情報システムユーザー協会(JUAS) JDMC(日本データマネジメントコンソーシアム) 株式会社 Be&Do アドバイザー</p>	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>日本情報システムユーザー協会(JUAS)やJDMC(日本データマネジメントコンソーシアム)での講演会、研究会参加、そのほか、IT企業でのアドバイザーなどを行っています。 企業内データ活用の現状と問題点に関する共同開発・共同研究を希望します。 また、企業内データ活用・分析の現状と課題についての調査の協力をお願いします。</p>